

診療科別主要手術件数（診療科別上位3位）

症例数の多い当院で実施された手術件数を各診療科別に集計。項目はKコード、STEM7コード、症例数、平均年齢で、上位3位を掲載しております。

<集計の条件>

手術術式の点数表コード（Kコード）を主として集計し、軽微な手術（創傷処理や皮膚切開術、輸血関連、加算項目等）は除外とした。また、整形分野においては部位毎の症例数としてカウントし術式名称がある。

<項目の定義>

- Kコード：医科点数表にて定められたコード
- STEM7コード：外保連で定められたコード
- 平均年齢：対象手術を受けられた当時の患者様の満年齢の合計数を症例数で除した値

【消化器内科】

Kコード	STEM7コード	術式名称	症例数	平均年齢
K721 1	Q51 10 21	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（長径2センチメートル未満）	101	68.0
K687 1	Q37 16 21	内視鏡的乳頭切開術（乳頭括約筋切開のみのもの）	11	82.3
K721 2	Q51 10 21	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（長径2センチメートル以上）	7	57.4

考 察

昨年に引き続き、当院の常時内視鏡検査が出来る体制が整備出来ていることが症例数を減少させることなく安定的に実施出来ていると思われま。健診から発見し、外来での治療つなげ、結果として上記の手術症例数へと繋がっていると考えます。

【外科】

Kコード	STEM7コード	術式名称	症例数	平均年齢
K633 5	QAJ 35 00	ヘルニア手術（鼠径ヘルニア）	7	71.6
K740 2	Q5A 13 00	直腸切除・切断術（低位前方切除術）	6	78.2
K719 3	Q54 13 11	結腸切除術（全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術）	5	74.4

考 察

昨年に引き続き、開腹手術が必要な疾患についても安定的に実施出来ております。2023年度からは自治医大との連携により診療体制を強化することで、症例数も自然と増える見込みのため今後も注視していきたいと考えます。

【整形外科】

Kコード	STEM7コード	術式名称	症例数	平均年齢
K082 1	BA2 34 04	人工関節置換術（膝）	26	80.3
K046 1	B94 30 04	骨折観血的手術（大腿）	23	85.5
K082 1	B91 34 04	人工関節置換術（股）	21	77.2

考 察

昨年に引き続き、加齢が原因の一つでもある変形性膝関節症に対する人工関節置換術の症例数が多く、次いで、転倒による骨折に対する骨折観血的手術も多く見られました。コロナ禍による外出控えが高齢者の活動を妨げる要因となり、体を動かす機会も減ったため転倒し骨折する事案が多かった印象です。

【眼科】

Kコード	STEM7コード	術式名称	症例数	平均年齢
K282 1 口	D4E 12 02	水晶体再建術（眼内レンズを挿入する場合）（その他のもの）	28	74.5
K282-2	D4E 16 12	後発白内障手術	6	69
K276 1	D4G 18 42	網膜光凝固術（通常のもの（一連につき））	3	76.7

考 察

昨年に引き続き加齢性白内障に伴う水晶体再建術が、症例数が最も多い結果となりました。地域性もありますが、手術を受けられた方の平均年齢は他科同様高く、外来を受診する方も比較的高齢者の方が多い印象です。

【耳鼻咽喉科】

Kコード	STEM7コード	術式名称	症例数	平均年齢
K331	D64 18 20	鼻腔粘膜焼灼術	37	63.6
K286 1	D54 17 22	外耳道異物除去術（単純なもの）	8	49.9
K300	D56 16 22	鼓膜切開術	5	58.8

考 察

昨年に引き続き、漏出性中耳炎や鼻出血に関する手術が多い結果となりました。耳鼻咽喉科のニーズは高く、子供から高齢者まで幅広く受診出来る点が結果として表れていると考えます。入院を伴う症例もありますが、その場で治療効果の高い手術が症例数に反映されているものと考えられます。